

2023 年第5号(9 月発行)

神戸市感染症の話題

事務局 神戸市保健所保健課

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1 Tel:078(322)6789 Fax:078(322)6763

結核

結核を含む感染症は感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)に基づき、医療機関からの発生届の情報が国のサーベイランスシステムに登録され、それにより、日本の感染症の発生動向調査が実施されている。令和5年 8 月、2022 年の「結核登録者情報調査年報」が厚生労働省から発表され、全国の結核罹患率は 8.2 と 10 未満の低蔓延状態を維持しさらに低下した。

(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000175095_00010.html)

神戸市の 2022 年の結核登録者情報調査年報について、全国と比較して説明する。

1. 結核罹患率(人口 10 万人に対する新登録結核患者数)

2022 年の結核罹患率は全国では 8.2。神戸市では 9.8 と初めて 10 未満となり低蔓延地域に仲間入りした。市内で地域差はあり、最も罹患率が高い長田区は 17.0、次いで兵庫区 12.7・東灘区 12.7、灘区 11.7 だった。一方、罹患率が低いのは西区 5.5、北区 8.2 と全国並みかそれ以下だった。旧市街地 3 区(中央・兵庫・長田)の罹患率が高い傾向が続いていたが、中央区は 7.4 と著明に低下した。(表 1、図 1)しかし、2022 年はコロナ禍の影響で結核の診断のための喀痰検査や胸部 X 線検査が控えられていた可能性があり、今後しばらくは一時的には患者数が増加しても、検査を勧めて患者の早期受診・早期発見に努めたい。

2. 新登録結核患者数(1 年間に患者として届出られ登録された患者数、再治療を含む)

新登録結核患者数は全国では 10,235 人で前年より 1,284 人(11.1%)減少した。神戸市では 148 人で前年より 53 人(約 26%)も減少した。前代未聞の減少率だが、理由の 1 つにコロナ禍での入国者数の減少が挙げられる。外国生まれ結核患者数は、2019 年・2020 年には 20 人以上いたが、コロナ禍の 2021 年・2022 年は各 12 人と低下した。しかし、2023 年の外国生まれ結核患者数は既に 2022 年を超え、同等の減少率は望めない。再増加に注意を要する。(表 2、図 1)

3. 喀痰塗抹陽性肺結核患者数及び罹患率(肺結核患者のうち、喀痰をガラス板に塗り顕微鏡でみて菌がみつかった患者(菌量が多い、他人への感染性が高い)数、及びその人口 10 万人に対する罹患率)

喀痰塗抹陽性肺結核患者数は全国では 3,703 人、罹患率 3.0 で、神戸市では 42 人、罹患率は 2.8 だった。2021 年より 35 人減少し、罹患率も 5.1 から 2.3 ポイント減少、新登録患者に占める割合も 2021 年の 38%から 28%に低下した。この数字を維持し、喀痰塗抹陰性のうちに患者を発見し治療開始することが感染拡大防止には重要である。(図 2)

4. 結核菌の感受性検査結果

結核菌は、薬剤耐性が誘導されやすく、3~4 剤の多剤併用療法が標準治療である。主要な薬剤の INH・RFP の 2 剤が耐性であ

れば多剤耐性結核(MDR)である。新登録肺結核培養陽性患者は全国で5,231人、うち、薬剤感受性結果が判明しているのは4,086人、MDRは26人(0.5%)であった。神戸市では培養陽性患者91人、1人のみ感受性が不明で後にMDRと判明した。その患者の治療歴は明らかでなく、感染経路も不明だった。高齢者で他界されたが、家族等周囲への感染拡大は否定的だった。

5. 年齢階級別新登録結核患者数(図3)

新登録結核患者を年齢階級別にみると、70歳以上は全国では6,649人(65%)、神戸市では114人(77%)だった。80歳以上は全国では前年より490人減少して4,583人(44.8%)、神戸市では28人減少して79人(53.4%)だった。70歳以上の結核患者は合併症や年齢による免疫力の低下により発病していると考えられる。何となく元気がない、食欲が低下してきたなどの症状が結核の始まりのことがある。

6. 小児結核(0~14歳の新登録結核患者)

小児結核患者数は全国35人、前年から6人(20.7%)の増加となったが、粟粒結核や結核性髄膜炎などの重症結核例は、0であった。神戸市の小児結核は2017年3人、2018年0人、2019年0人、2020年2人、2021年1人、2022年0人だった。

7. 外国生まれ新登録結核患者数

全国では前年から99人減少し、1,214人となった。神戸市では前年と同じ12人で、全市の新登録結核患者に対し8.1%に上昇した。20代では新登録結核患者8人中6人(75%)が外国生まれだった。全国でも20代の新登録結核患者に占める外国生まれ患者の割合は77.5%と増加した。結核の罹患率が高い国で生まれ、大学・語学学校などの留学生として来日し、発病している人が多い。入国前結核スクリーニングが稼働していない現在、入国2か月以内の健診で患者が発見されている。結核は潜伏期間が長いいため、その後も年1回の健診の受診勧奨とそこで発見される人を速やかに治療につなぎ、感染拡大を防止していくことが重要である。

8. 潜在性結核感染症(結核菌に感染しているが、症状・所見はなく発病していない状態: Latent Tuberculosis Infection LTBI) 治療が必要な例のみ届出る。

全国で5,025人、前年より115人減少、神戸市では60人で、前年より4人減少している。接触者健診で発見し治療する人より、生物学的製剤などを使う治療に際し、治療が必要となる人が増加し、60歳以上が43人で72%を占めている。(図4)2021年10月18日の医療基準の改定により、INH・RFP2剤で3~4か月というレジメが追加承認され、若年者のLTBI治療に使用され始めている。

表1 罹患率(人口10万人あたり)

年	2020	2021	2022
神戸市	14.0	13.2	9.8
東灘	12.6	10.8	12.7
灘	8.0	8.8	11.7
中央	15.6	14.2	7.4
兵庫	22.0	17.5	12.7
北	12.4	14.8	8.2
長田	21.1	22.3	17.0
須磨	12.0	13.3	9.6
垂水	13.5	9.9	9.0
西	14.2	13.5	5.5

2020年は国勢調査の人口集計値で計算

2021・2022年は統計こうべの10月推定人口で計算

表2 新登録患者数(人)

年	2020	2021	2022
神戸市	213	201	148
東灘	27	23	27
灘	11	12	16
中央	23	21	11
兵庫	24	19	14
北	26	31	17
長田	20	21	16
須磨	19	21	15
垂水	29	21	19
西	34	32	13

図1 各区罹患率 人口10万人に対する患者数 (2019年～2022年 新規患者)

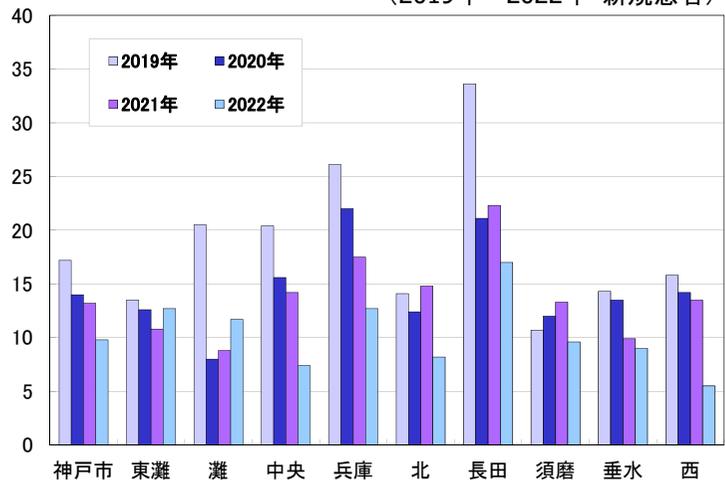


図2 新登録結核患者数(年次推移) 神戸市

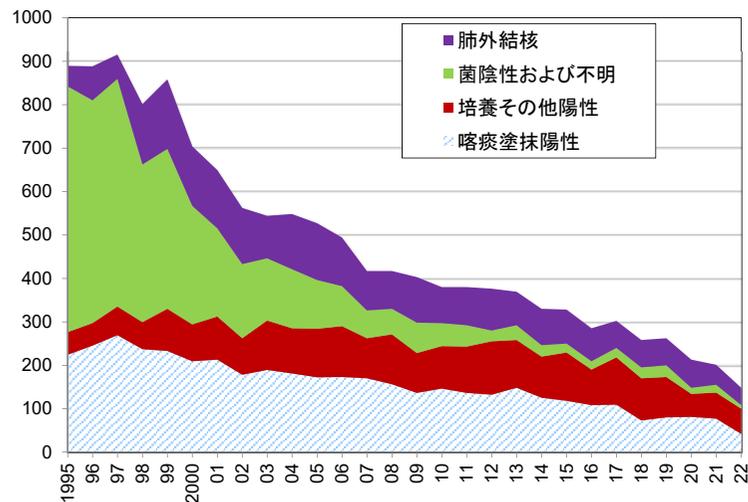


図3 新登録患者年齢分布 神戸市

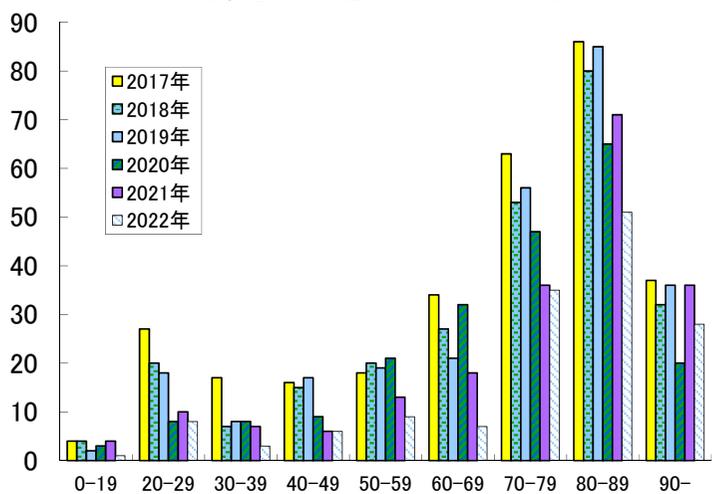


図4 潜在性結核感染症登録者数の推移(神戸市)

